

# 授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和3年11月発行  
西部教育事務所

今回は大方中学校で行われた、9月28日  
(火)教材研究会、11月5日(金)授業研究会  
の様子を紹介します。



西部管内の  
講座関係のHP

【单元名】「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」(第1学年) 【授業者】福岡 征則教諭(黒潮町立大方中学校)

## 中心となる指導事項

〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」(1)オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

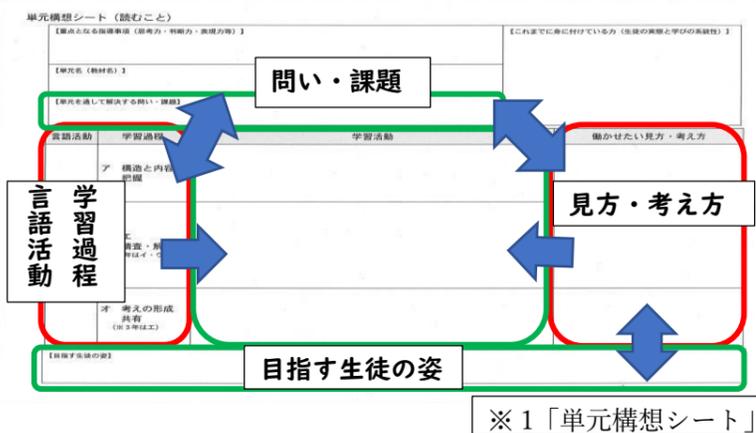
## 協議内容

育成したい資質・能力を身に付ける单元構想案を考える。

# 教材研究会

单元づくりでは、「生徒の実態を捉えたうえで身に付けさせたい資質・能力を設定すること」、「付けたい資質・能力に合った言語活動を設定すること」、「生徒が自ら学びを進めていくため問いを設定すること」という三つの要素が密接に結びつくようにすることが重要です。

この3要素を関連付けて单元づくりを行うために、教材研究会では「单元構想シート」(※1)を活用して、参加者全員で单元構想を行いました。



## 協議からのポイント1：学習過程を生徒が推し進めるためには？

国語科では、育成を目指す資質・能力を言葉による見方・考え方を働かせながら、言語活動を通して生徒自らが学習過程を推し進めながら身に付けることが求められています。そのためには生徒の実態に合わせ、生徒自身が「やってみたいな」「なぜだろう?」と思える、单元を通して解決する「問いや課題」の設定が必要です。

今回の教材研究会では「作者は月の世界と地上の世界、どちらが素晴らしいと思っているか」や「竹取物語が千年以上も残り続けているのはなぜか」などの問いが案として出てきていました。

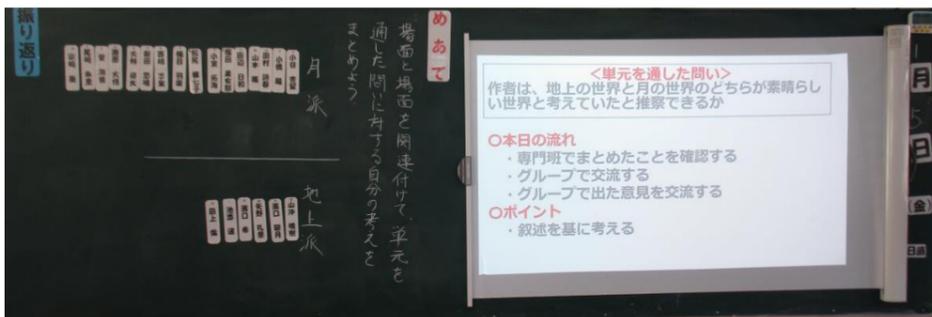
## 協議からのポイント2：ゴールの姿から单元全体を描く

单元構想をするうえで、「单元末に目指す生徒のゴールの姿」を具体的にイメージするというのも重要なポイントです。教師が事前に「おおむね満足できる状況」となる「单元末に目指す生徒の姿」を想定し、どのような「見方・考え方」を働かせて学習活動を展開していくのかを計画することで、指導のねらいがより明確になるとともに、生徒の学びを振り返り授業改善に生かすことができます。このことが「指導と評価の一体化」を図ることに繋がります。

## 教材研究会を受けて改善を行った点

教材研究会では、生徒が自分で学習過程を推し進めていく言語活動や問いについて様々な案が出されました。このことを受け、みなさんの意見をもとに大方中学校の生徒の実態に応じた問いと、学習過程の「構造と内容の把握」「精査・解釈」を通して、読み取ったことを基に他者に説明したり、他者の考えやその理由などを知ったりすることで自分の考えを形成する言語活動を設定しました。

## 【当日の板書】



授業参観の視点：本時で育成したい資質・能力が身に付いたか。

〈働かせたい見方・考え方〉

- ・場面と場面を関連付けて、自分の考えをまとめる。
- ・叙述をもとに自分の考えをまとめる。

# 授業研究会

## 「国語好きを育てる教師に」 東京女子体育大学 田中 洋一教授

◎書き方、読み方等の「知識・技能」をしっかり教える

◎「自分なりの読み」で国語好き、古典好きを育てる

新学習指導要領では、変化の激しい社会に対応できる力と、学校を卒業してからの長い人生を自分の力で生き抜く力を付けることを目指している。では、我々国語科の教師は生徒にどんな力を授業で付けたらいいのか。

文章を読むためには3段階の読みが大切である。文学的な文章の場合には①叙述を正しく読む、②書かれていないことを読む(行間を読む)、③叙述をもとに自分なりに読む。という段階を指す。しかし現状では、②までの読みで終わっている授業が多い。本当の思考力・判断力・表現力等を育てようと思えば、そこをもう一歩踏み込んで、多様な答えが生まれる「私はこう読んだ」という③の読みまでを授業の中で扱う必要がある。このことにより「こう読まなければいけない。」から脱却し、生徒が主体的に読みを深めていくことができる。

では古典の授業ではどうだろう。解釈ばかりに重きを置くと古典嫌いをつくりかねない。古典も文学であるので、文章をぶつ切りにして読むのではなく、現代語である程度長く読ませることによって「昔の人も今と同じだ」「(今は違って)昔はそうだったんだ」という古典の面白さに気づかせることができる。将来「興味をもった事柄についてもっと調べてみようかな。詳しく本で読んでみようかな。」という自分の生活の中に生かせる国語好きを育てるためには、普段の授業から「自分はこう読んだか」という多様な答えをもたせられるようにし、本当の意味での思考力・判断力・表現力を育てたい。



## ICTの活用



タブレット端末に、グループで調べたことをプレゼンテーションの資料としてまとめ、ほかのグループと共有していました。

## 参加者の声

○「考えの形成」を確かなものにするために、「内容と構造の把握」「精査・解釈」を生徒が確実にこなせるような手立てを工夫する必要があると感じました。また生徒が「面白かった」と思える授業にすることで、生徒の力になるという視点を大切に、まずは古典の授業から改善を図っていききたいと思います。

○いろいろな教員と知恵を出し合ったり、生徒との学びで発見しながら学びを高めたり深めたりして、日々の実践の中で生徒が「面白かった!」と思える授業づくりをいきたい。